

「心地よい生活を支えるしなやかな社会の創造 ー 都市が抱える課題解決にグリーンスペースが果たす役割」

主 催： 一般社団法人公園からの健康づくりネット・公益財団法人都市活力研究所
共 催： World Urban Parks ジャパン
協 賛： 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会・一般社団法人公園管理運営士会

■開催趣旨

COVID-19 がもたらしたパンデミックは、それぞれの社会が持つ課題を顕在化させました。市民が感じる「心地悪さ」を解決するための Wellbeing つまり、少しでも良くなることを目指し、より公平で、持続可能であり、より健康的な都市をつくる機会が巡ってきています。都市は、すべての人の生活の向上を保証するために、多様な人々のニーズと行動様式を受け入れることができるように設計されなければなりません。各都市の経営戦略においてグリーンスペースの重要性がますます高まっています。

■プログラム

① グリーンスペースとウェルビーイング 都市の Wellbeing に資する取り組み

講演者：Tim Geyer 氏（WUP 副会長）

緑地が及ぼす健康への影響は、政治的にも注目を集めています。緑の効果を生かして街のウェルビーイングにつながる WUP の宣言についてお話しいただきます。

② 緑地と健康 データが示すグリーン施策の効果

講演者：WHO ヨーロッパ環境健康センター（司会 Tim Geyer 氏）

WHO 担当者に、みどりの健康効果に関するシステムティックレビューおよび健康便益指標についてお話しいただきます。

③ グリーンスペース施策を都市政策の軸に据える試み

講演者：Neil McCarthy 氏（WUP/CEO）

包括的な都市政策に公園と緑地を組み込むためには、様々な政策分野と連携するプロセスが重要です。社会的処方 of ランドスケープ的解釈をお話しいただきます。

■開催概要

開催方式： ウェビナー視聴方式（無料）日本語字幕が付きます。※期間中セミナーを公開、同時に質問・意見を募集します。後日、HP にて回答を公表します。

視聴期間： 2021 年 11 月 1 日（月）～7 日（日）

視聴方法： Peatix 申込みのうえ、確認メールから視聴ページにアクセスし、ご視聴ください。

申 込： 「公園からの健康づくりネット」トップページからアクセスしてください。

「公園からの健康」で検索 <https://parkhealth.jp/> トップページ案内をクリック

講演者紹介

セッション① グリーンスペースとウェルビーイング 都市の Wellbeing に資する取り組み

Tim Geyer 氏

Would Urban Parks 副会長 / Service Manager - Urban Landscapes at Queanbeyan
Palerang Regional Council

ティム・ガイヤー氏は、豪州キャンベラに隣接するクアンベヤンの地方自治体で、公園、都市景観、レクリエーションサービス分野における戦略的、財務的、運用管理の経験を 50 年近く行ってきました。

WHO との強いパイプを持ち、WUP と WHO の連携強化、共同で行う事業の推進に力を注いでおられます。



セッション② 緑地と健康 データが示すグリーン施策の効果

Matthias Braubach 博士

Technical Officer, WHO European Centre for Environment and Health (Bonn, Germany)

マティアス・ブラウバッハ博士は、都市地理学のバックグラウンドと公衆衛生の修士号を持っています。健康的な建築環境における身体活動の研究、都市における環境条件の不適切な住宅と健康への影響を研究テーマにされています。また、ボン大学の災害管理マスターコースの公衆衛生モジュールで講義をしています。研究論文に「都市の緑地が環境の健康、公平性、回復力に及ぼす影響」があります。



Pierpaolo Mudu 博士

Technical Officer, WHO European Centre for Environment and Health (Bonn, Germany)

ピエルパオロ・ムドゥ博士は、ワシントンタコマ大学の都市学部および学際的芸術科学部と協力している地理学者です。彼の関心は主に都市と人口地理学にあり、研究の主な焦点は、社会運動と移住、そして公共空間の変容に関連する都市の発展にあります。WHO では、都市の緑地への介入が、健康と公平な社会形成につながるという研究に関わっています。



Nathalie Roebbel 博士

Unit Head, Air Quality and Health bei World Health Organization (HQ)

ナタリー・レーベル博士は、WHO の大気汚染と都市の健康のコーディネーターです。主な仕事は、WHO の住宅と健康に関するガイドラインの作成と、住宅政策やその他の社会政策や介入を通じてスラムのアップグレードに取り組む WHO の取り組みです。WHO HQ の前は、ボンとコペンハーゲンにある WHO ヨーロッパ地域事務所で技術責任者として、環境健康パフォーマンスのレビューを担当し、いくつかの住宅と健康関連のプロジェクトに関与しました。



セッション③ グリーンスペース施策を都市政策の軸に据える試み

Neil McCarthy 氏

Would Urban Parks 最高経営責任者 / CEO at Mosaic Insights

ニール・マッカーシー氏は、2018 年から WUP / CEO として各国公園組織の国際的な連携に尽力されました。2020 年 3 月 Covid19 パンデミックが WHO から発せられた際には、WUP / CEO として都市公園の果たすべき役割をいち早く発信しました。

豪州ビクトリア州北東集水域管理機構 CEO、パークスビクトリア公園部長を歴任されビクトリア州の政策に大きな影響を与えられました。たびたび来日され、日本文化、日本の公園施策について関心をお持ちです。2015 年に淡路で開催された国際シンポジウムで基調講演をされています。

